

○再挑戦の民主党、頑張ります

民主党が大敗をして、衆議院は 57 人の所帯になりました。大きな逆風の中で当選させていただいたことに、心から感謝しています。

民主党の再生と、新たな政治枠組みでこの国の直面する問題を乗り切っていくことを期して、私は、新しく就任したポスト「民主党幹事長代行」をやりきっていきます。民主党綱領の策定や、再生に向けた党運営の新プラン作りを手がけ、2 月ごろを目途に発表します。同時に、今回落選した多くの同士たちが、再度、頑張るぞという意味を持ち、挑戦の基盤を作ることが出来るようにその準備もしていきます。

国家のビジョンを語るとき、明日あさっての直近の政策と 20 年、30 年先の中・長期的な政策が一貫性を持って実施されることが大事です。中・長期を見据えた問題では、極端な少子化による人口構造の変化への対応、1 千兆円にならんとする国家の財政破綻、先進国が一樣に金融の量的緩和で低金利競争を始めたことによる円高で、国内の製造業の空洞化を助長したこと、脱原発を前提としたエネルギー政策などがあります。どれも小手先では対処できない問題で、構造的な変革を必要とします。一方で、公共事業を復活させ、大きな財政出動で株価の上昇を目論んだり、インフレターゲットを定めて日銀の金融緩和を誘導しデフレの脱却をねらうことなどは、明日あさっての景気対策には株価を上げる影響はあっても、根本的な構造改革にはまったく逆行する結果になります。安倍さんや麻生さんの政策は、アクセルを踏むばかり、国家の財政に責任を持ちブレーキを利かす役割を誰も負うことがないまま、国の借金が増え続けることとなります。

一方で、私達民主党は、選挙の結果ぼろぼろにはなりました。しかし、これまで取り組んできた様々な課題にはこれからも引き続き取り組んでいきます。少子化は、少なくともこれ以上の少子化はここで止める。少子化を仕方ないと諦めるのではなく「子ども子育て新システム」や「子ども手当」などととも、女性の社会進出などとあわせて、人や子どもへの投資を進める。消費税では、これまでの政治決断では、やれば選挙に負けるかもしれない増税を、野田さんは敢えて強行しました。背景には、限界を超えた国家財政の負債リスクに対する責任感があり、私もそれに同調しました。結果、小沢さんはじ

め多くの同志が離党して民主党は満身創痍の状況に追い込まれました。円高の問題では、日銀へのプレッシャーでこれを内向きに凌いでいるだけでは本当の解決になりません。低金利競争をしている世界の金融市場に対して、挑戦すること。アメリカやヨーロッパの金融政策を巻き込んだ、新しい世界の金融システムを提唱する気概を持たないと構造改革にならないのです。原発については、経済構造に与える影響を最小限におさえて、代替エネルギーに切り替える道筋を具体的に作り出す作業が残っています。

民主党は、日々のマネジメントが稚拙で反省すべきところが沢山あり、申し訳なく思っています。一方で、少なくとも、私たちが実現すべく追い求めてきた政策については、中長期的なこの国のビジョンを描く中では、大事な挑戦だと思っています。明日あさっての直近の話だけに右往左往すれば、この国は破綻します。20 年、30 年先のビジョンに向かって構造改革に挑戦する、その気概をもって党のど真ん中で次の挑戦に向かってまた元気に進んでいきます。

○参加型党運営を目指して

日本各地をまわって、民主党の支持者の話をしっかり聴かせていただこうと思っています。民主党が政党としてもう一つ足腰強くなれないのは、参加型のシステムが出来ていないのがその原因の一つだと考えています。新人候補者は、公募をした上で、党員、サポーターによる予備選挙で決めること。各自治体の議員の皆さんが中心になって、それぞれの地域の民主党運営を可能にする財政基盤を作ることなど、党運営の改革にも挑戦します。

○若い新人二人に期待

事務所に、新人が二人参加します。臼木剛志君(31 才)と前川申龍君(23 才)です。臼木君は主に四日市地域。前川君は主に鈴鹿地域を担当します。今回の二人はまだ若いですが、後援会の皆さんのお叱りや励まし、ご指導の中で、一人前になれるようしっかり鍛えてください。

中川 正春